



東北の果樹をめぐる情勢



令和8年3月
東北農政局生産部
園芸特産課

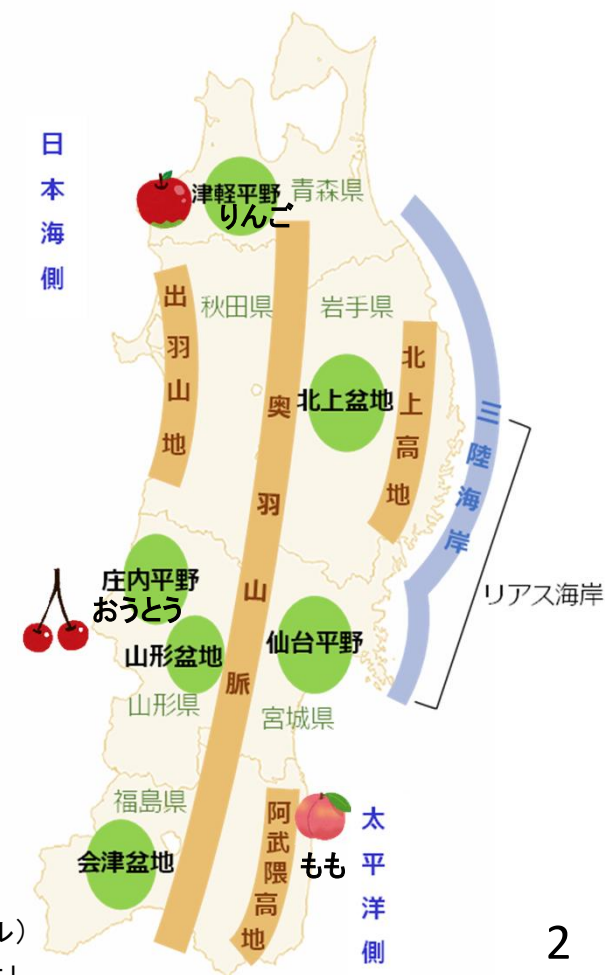
➤ 果樹の生産状況(栽培面積)

- 東北地域の気候や地形は、南北をつらぬく奥羽山脈により、日本海側と太平洋側に分けられ、降雪を伴う冷涼な気候など地域の自然の特性を活かしながら様々な果樹を生産している。
- 主な品目は、りんご、おうとう、もも、ぶどう、日本なし、西洋なし、すもも。
- 青森県のおうとう、山形県の西洋なし、おうとうは全国1位、福島県のももは全国2位、山形県のぶどう、福島県の日本なしは、全国3位と全国上位を占めている。

○主な果樹の栽培面積(令和6年)

品目	東北 (ha)							全国 (ha)	東北のシェア (%)
	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県			
りんご	19,800	2,230	173	1,140	1,980	1,170	35,000	75.7	
日本なし	—	—	132	157	100	790	9,830	12.0	
西洋なし	128	—	—	—	797	34	1,350	71.0	
もも	159	—	—	—	716	1,750	9,900	26.5	
すもも	119	—	—	—	243	127	2,670	18.3	
おうとう	—	—	—	85	2,800	—	4,320	66.8	
ぶどう	402	350	—	180	1,390	301	17,500	15.0	
かき	—	—	243	—	683	944	17,600	10.6	
その他の政令指定品目…※	206	—	311	—	—	294	92,128	0.9	
政令指定品目合計	20,814	2,580	859	1,562	8,709	5,410	190,298	21.0	

○東北の地形のようす



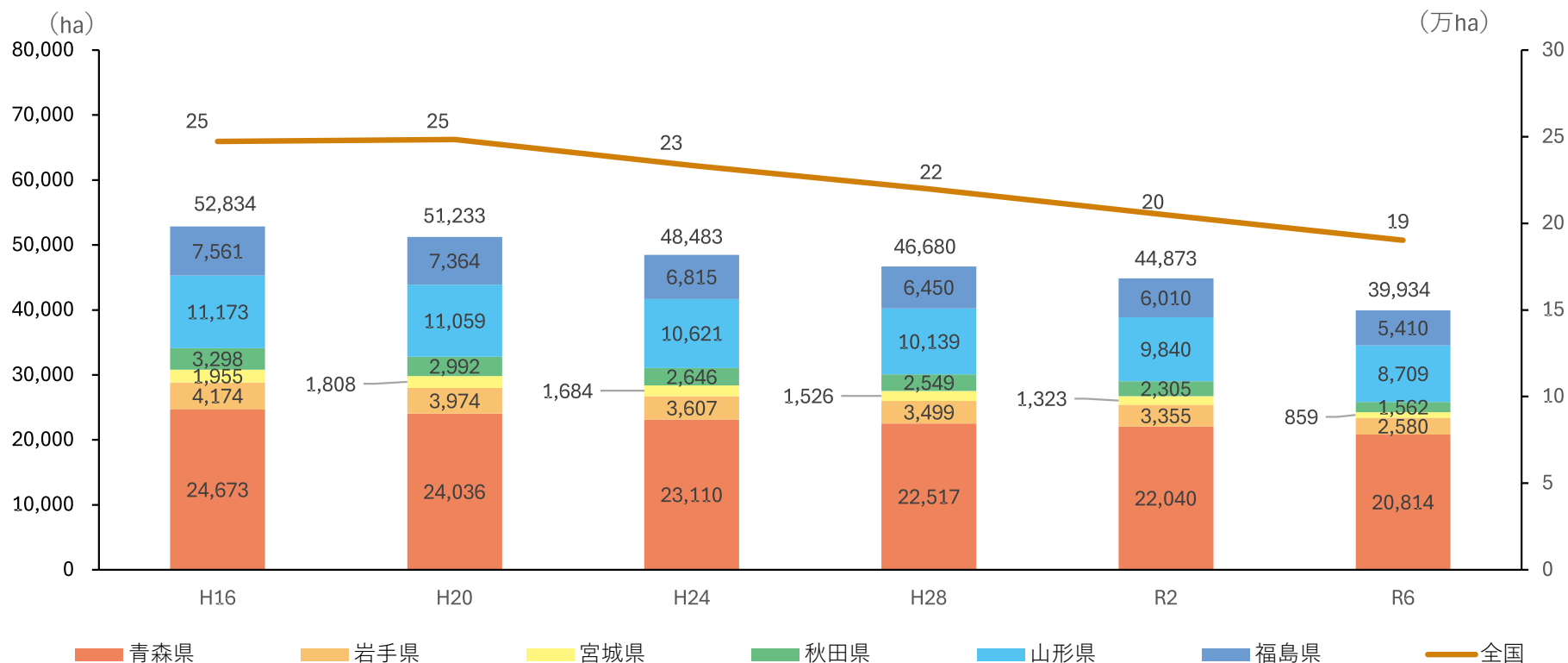
※政令指定品目(かんきつ類、りんご、ぶどう、なし、もも、おうとう、びわ、かき、くり、うめ、すもも、キウイフルーツ及びパインアツプル)

資料: 農林水産省「耕地及び作付面積統計」

➤ 果樹の生産状況(栽培面積の推移)

○平成16年から令和6年の東北6県での果樹の栽培面積は、全国同様、減少傾向で推移している。
 ○県別に減少率をみると、青森県15.6%、山形県22.1%では全国(24%)よりも低いが、岩手県38.2%、宮城県56.1%、秋田県52.6%、福島県28.4%では全国よりも高くなっている。

○果樹の栽培面積の推移

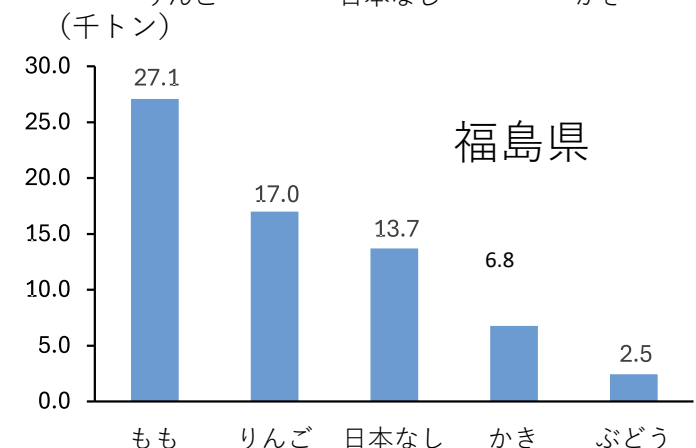
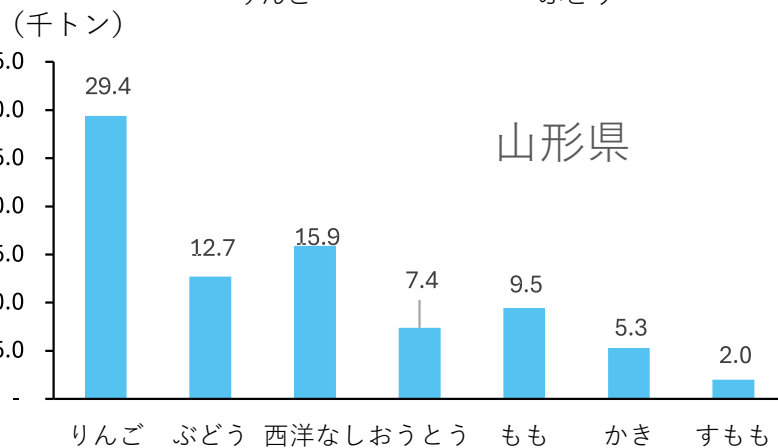
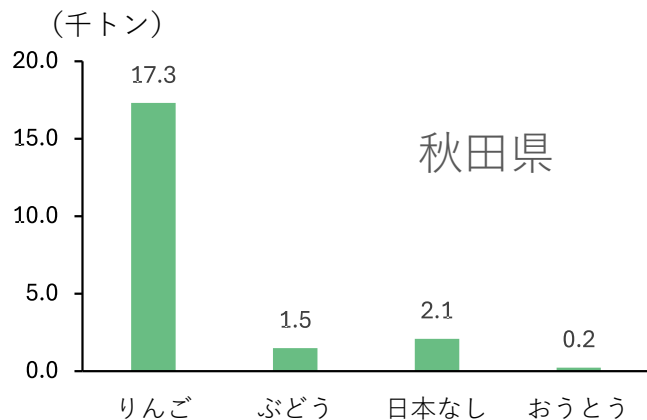
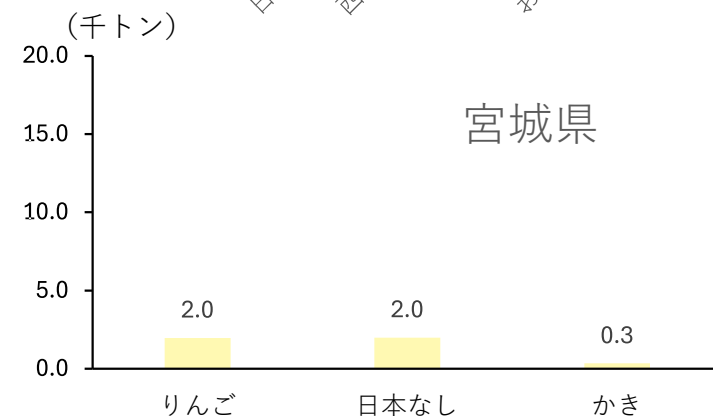
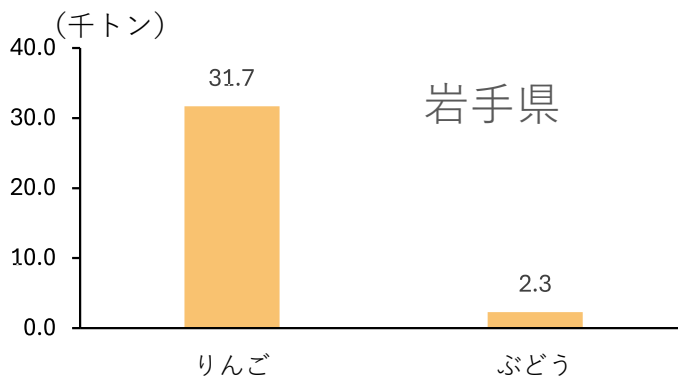
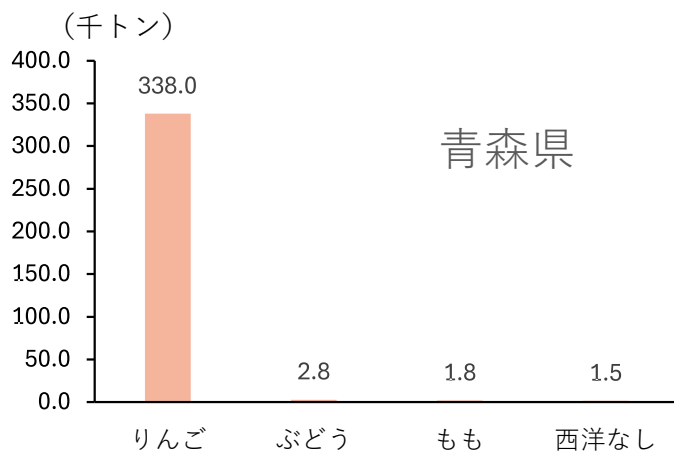
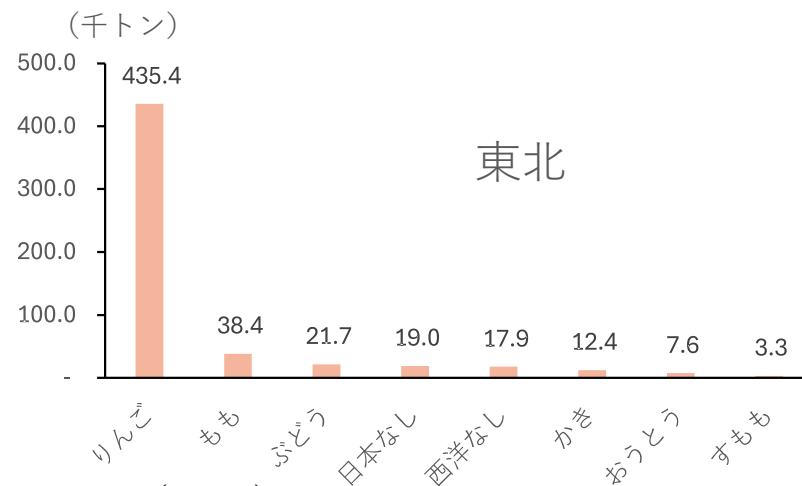


資料:農林水産省「耕地及び作付面積統計」

➤ 果樹の生産状況(県別の主な品目の出荷量)

- 東北で最も出荷量が多い果樹はりんごの43万5千トンと全国のおりんご(55万5千トン)の約8割を占めている。
- 次に多い品目は、ももとなっている。

○県別の主な品目の出荷量の状況(令和6年産)



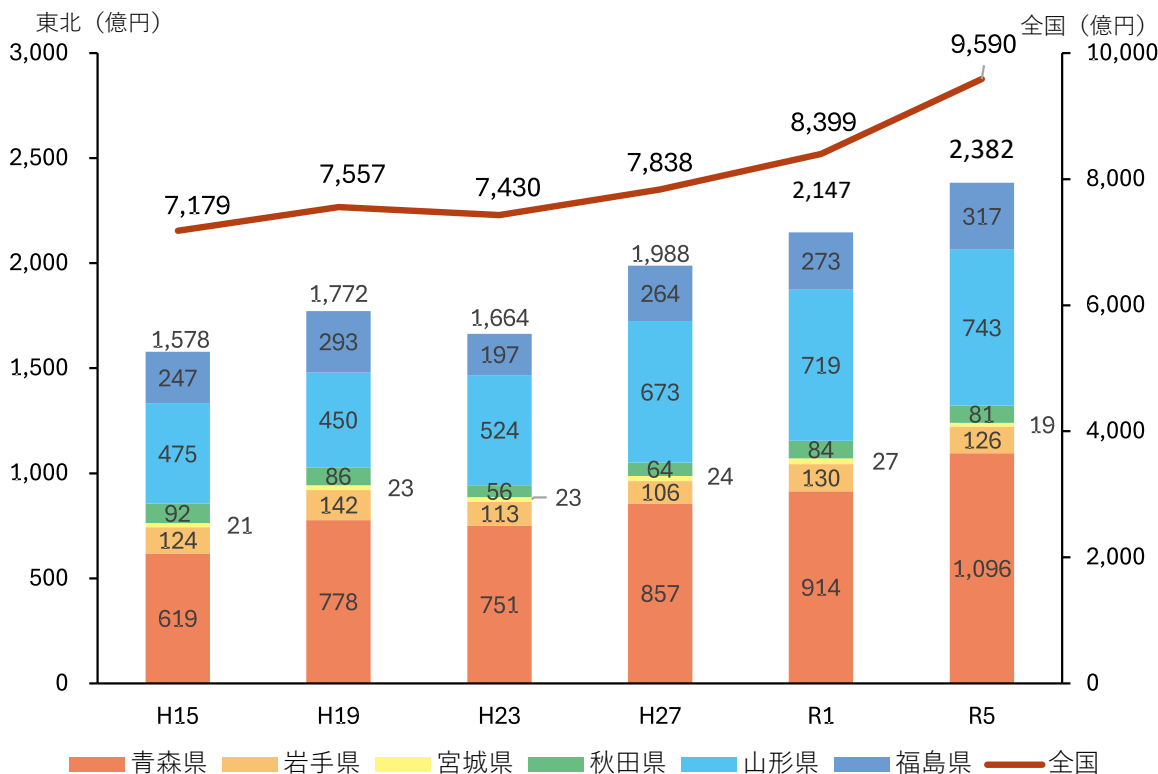
資料:農林水産省「果樹生産出荷統計」

調査対象:みかん、りんご、日本なし、西洋なし、かき、びわ、もも、すもも、おうとう、うめ、ぶどう、くり、パインアップル及びキウイフルーツの主産県

➤ 果実の産出額

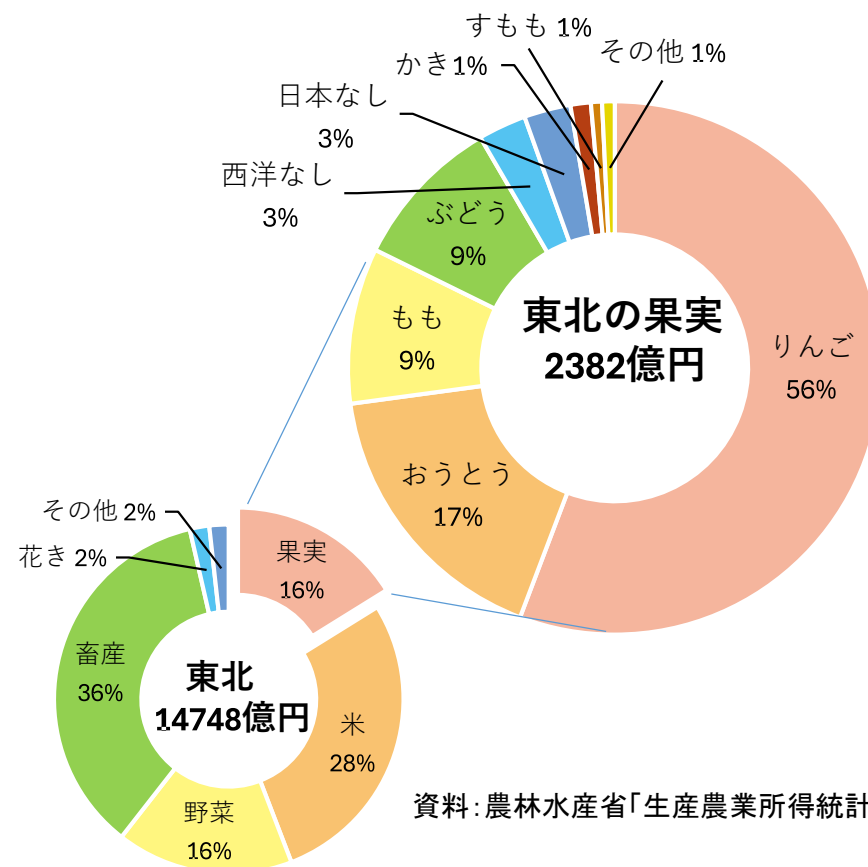
- 東北の果実の産出額は、2,382億円と、全国の25%を占める。
- 東北の果実の産出額は、全国と同様に、栽培面積の減少や近年の異常気象により生産量が減少する一方、供給が需要に追いつかず高単価になる等により増加。
- 平成19年に比べ平成23年の産出額が大幅に減少したのは、同年の新潟福島豪雨や台風等の影響である。特に福島県では、福島第一原子力発電所の事故による影響も要因となっている。
- 果実の品目別では、りんご、おうとう、もも、ぶどうの順に多く、この4品目で全体の9割を占める。

○東北の果実の産出額の推移



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

○農業産出額構成(令和5年産)



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

➤ 果実の産出額(県別①)

- 青森県の果実の産出額は1,096億円で、うちりんごの産出額が1,033億円と9割以上を占める。全国で10位以内には、りんご、西洋なし、おうとう、もも、すもも、うめがある。
- 岩手県の果実の産出額は126億円で、うちりんごの産出額が8割以上を占める。全国で10位以内には、りんご、西洋なしがある。
- 宮城県の果実の産出額は19億円で、うち日本なしの産出額が3割以上を占める。

○県別農業産出額のうち上位50品目に含まれる果実の産出額(令和5年産)

【青森県】

順位	品目	産出額 (億円)	全国順位
1	りんご	1,033	1
2	ぶどう	22	14
3	おうとう	12	5
4	もも	10	7
5	西洋なし	6	3
6	すもも	4	8
7	日本なし	3	37
8	うめ	3	9
県計		1,096	1

【岩手県】

順位	品目	産出額 (億円)	全国順位
1	りんご	104	3
2	ぶどう	12	25
3	もも	3	16
4	日本なし	2	44
5	西洋なし	1	7
県計		126	19

【宮城県】

順位	品目	産出額 (億円)	全国順位
1	日本なし	7	26
2	りんご	4	11
3	うめ	2	16
4	かき	1	36
5	もも	1	25
6	ぶどう	1	46
県計		19	45

○全国順位が上位(10位以内)

資料: 農林水産省「生産農業所得統計」

注: 県計は、記載品目以外も含む果実全体の産出額であるため、品目別の産出額と合わない

➤ 果実の産出額(県別②)

- 秋田県の果実の産出額は、81億円で、うちりんごの産出額が50億円と6割を占める。
全国で10位以内には、りんご、西洋なし、おうとうがある。
- 山形県の果実の産出額は、743億円で、うちおうとうの産出額が378億円と5割を占める。
全国で10位以内には、おうとう、西洋なし、ぶどう、りんご、すもも、ももがある。
- 福島県の果実の産出額は、317億円で、うちももの産出額が154億円と5割を占める。
全国で10位以内には、もも、日本なし、りんご、おうとう、すもも、ぶどう、かきがある。

○県別農業産出額のうち上位50品目に含まれる果実の産出額(令和5年産)

【秋田県】

順位	品目	産出額 (億円)	全国順位
1	りんご	50	5
2	ぶどう	9	27
3	もも	8	11
4	おうとう	7	7
5	日本なし	4	34
6	西洋なし	2	6
県計		81	29

【山形県】

順位	品目	産出額 (億円)	全国順位
1	おうとう	378	1
2	ぶどう	139	4
3	りんご	89	4
4	西洋なし	60	1
5	もも	48	6
6	かき	13	11
7	すもも	8	4
8	日本なし	5	29
県計		743	5

【福島県】

順位	品目	産出額 (億円)	全国順位
1	もも	154	2
2	日本なし	46	5
3	りんご	43	6
4	ぶどう	38	7
5	かき	15	10
6	おうとう	8	6
7	ブルーベリー	5	—
8	すもも	4	6
県計		317	8

資料: 農林水産省「生産農業所得統計」

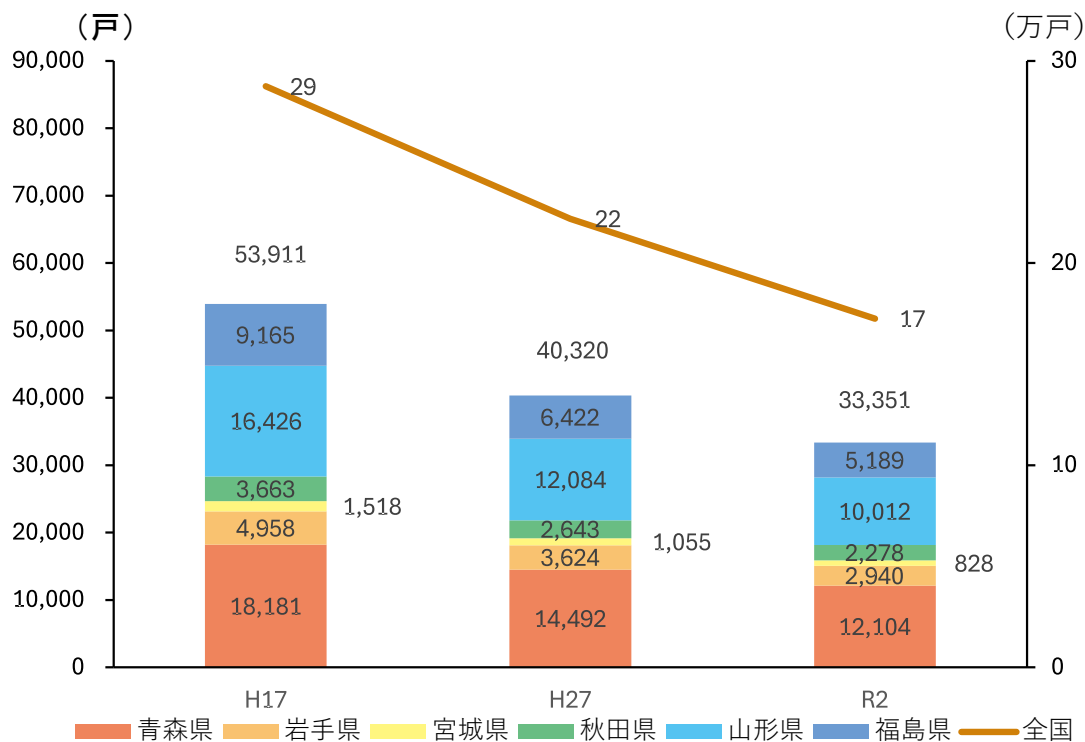
注: 県計は、記載品目以外も含む果実全体の産出額であるため、品目別の産出額と合わない

○ 全国順位が上位(10位以内)

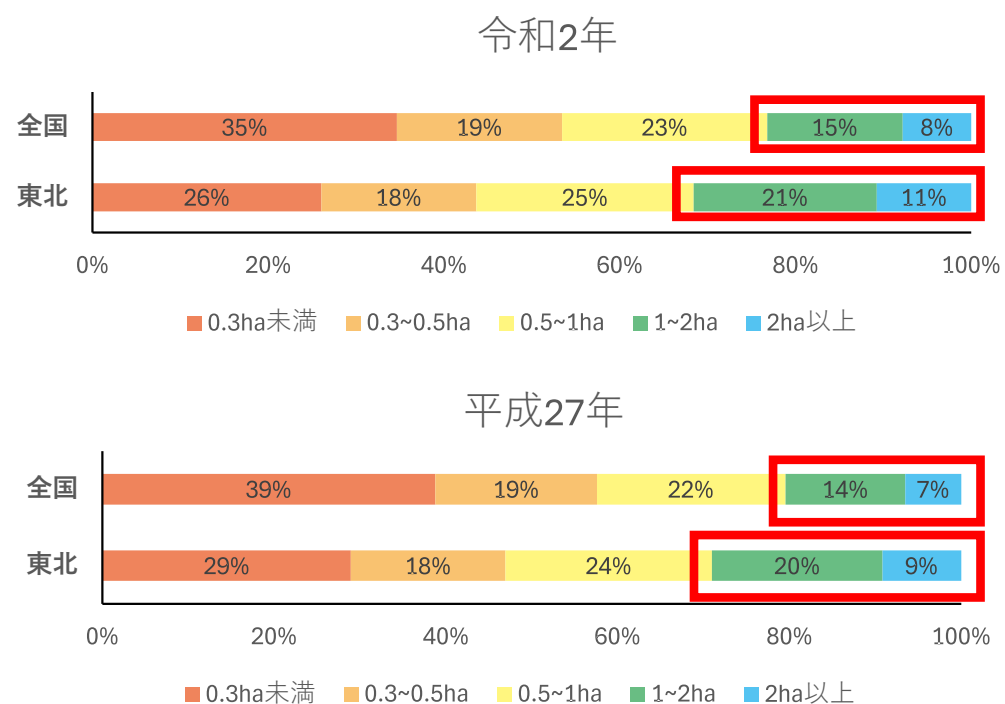
➤ 担い手の状況①

- 果樹の栽培農家数は、平成17年から令和2年にかけて38%減少してきている(全国41%減少)。
- 樹園地面積規模別農家数は、0.3ha未満が26%(全国35%)、1ha以上が32%(全国23%)。全国に比べ規模の大きな農家が占める割合が大きい。
- 東北で1ha以上の農家数が占める割合は、平成27年の29%に比べ令和2年は32%と増加しており、農家数の減少に伴う規模拡大も考えられる。

○果樹の栽培農家数の推移



○樹園地面積規模別農家数



資料：2020農林業センサス「農林業経営体調査報告書」
2015農林業センサス「農林業経営体調査報告書」

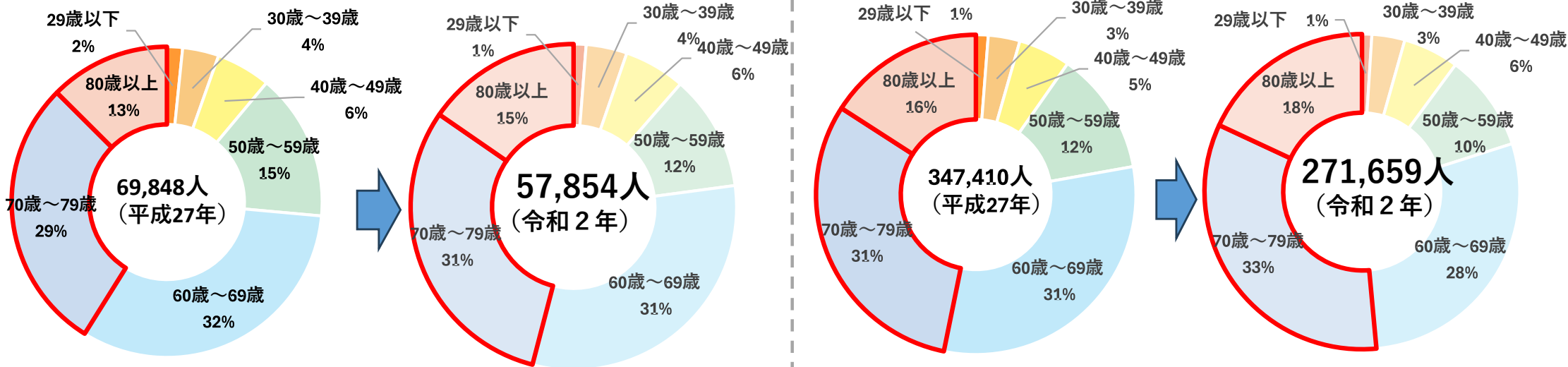
➤ 担い手の状況②

- 東北の令和2年の年齢階層別の基幹的農業従事者数では、70歳以上の割合は46%と、全国
の51%と比べ低いものの、平成27年の42%からは増加しており、高齢化が進んでいる。
- 東北、全国どちらも50歳未満の割合が低く、49歳以下の若手の担い手が不足している。

○年齢階層別の基幹的農業従事者数(果樹部門)(農業経営体(個人経営体))

【東北】

【全国】

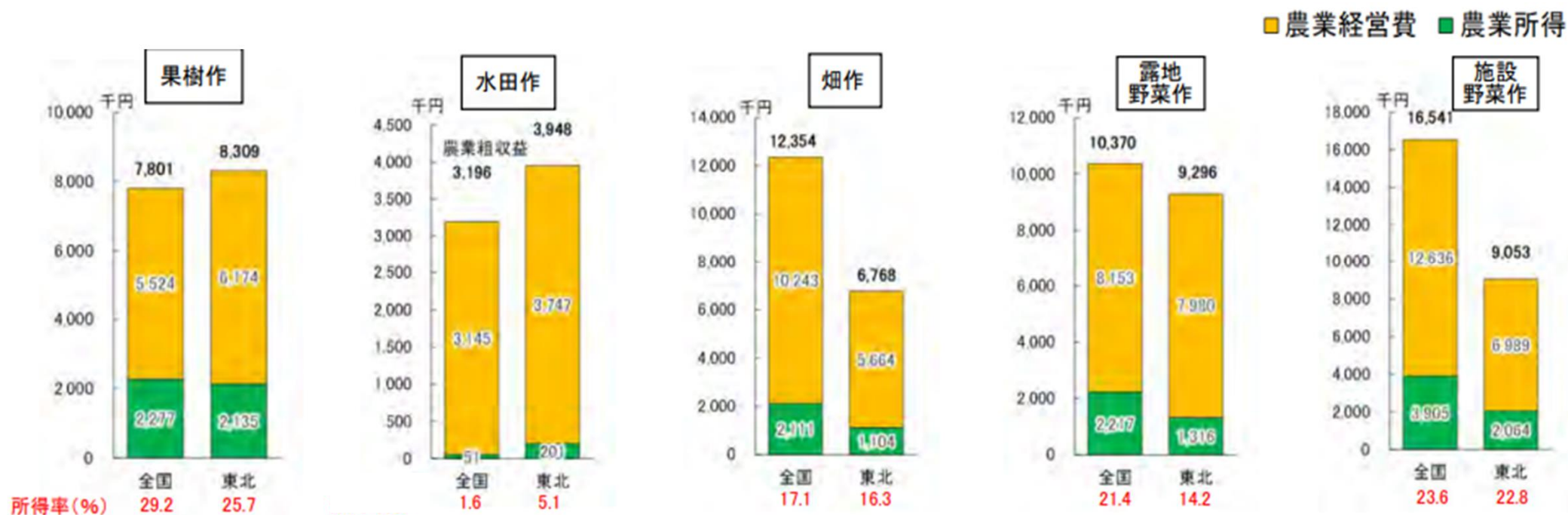


➤ 果樹の農業経営収支

○東北の農業経営体の農業所得※1を営農類型※2別にみると、果樹作では213万5千円となっている。

○東北の所得率※3では果樹作が25.7%と最も高く、次いで施設野菜作が22.8%。

○営農類型別にみた1農業経営体(個人)当たりの農業経営収支(全国・東北)(令和5(2023))



資料：農林水産省「農業経営統計調査 営農類型別経営統計（個人経営体）」

※1 農業所得 = 農業粗収益 - 農業経営費

※2 「営農類型」とは、農業経営体ごとに農畜産物の販売収入を「水田作、畑作、露地野菜作、施設野菜作、果樹作、酪農、肉用牛、養豚」等に区分し、それらのうち最も収入が多い区分へ分類（営農類型別）したものである。したがって、当該営農類型の販売収支には、それ以外の販売収支も含まれている。

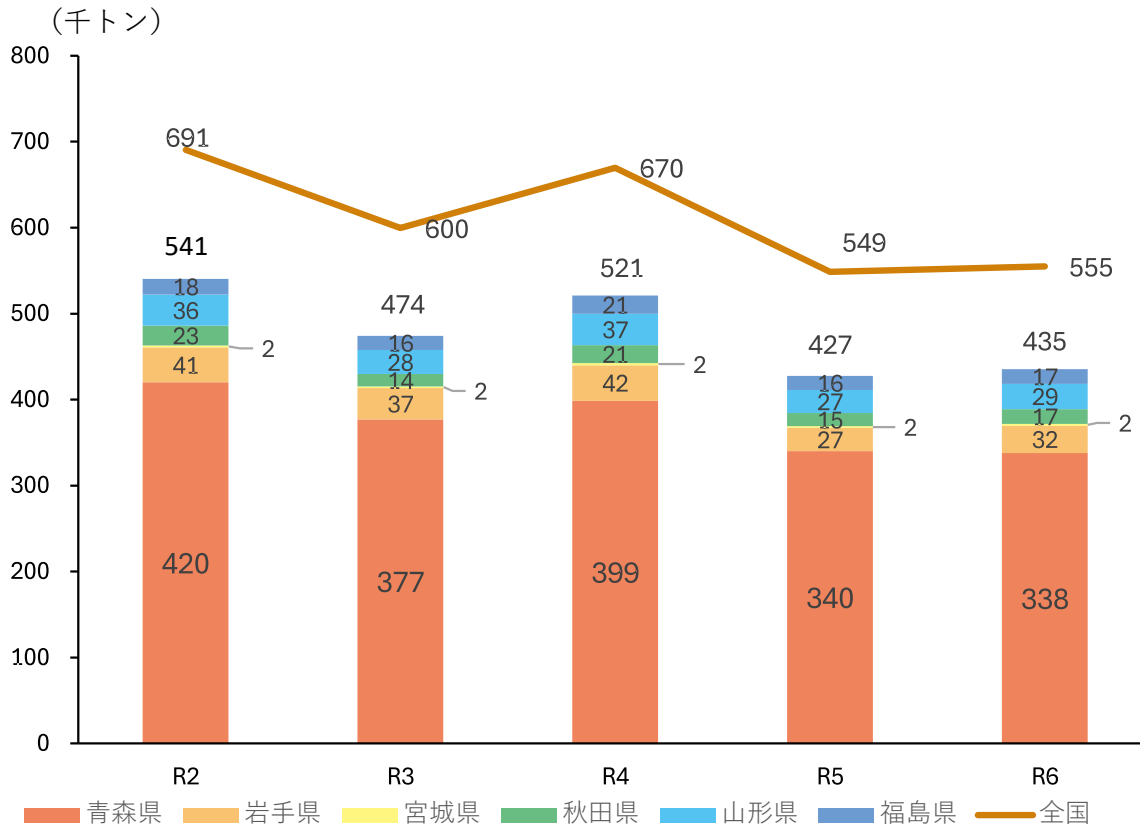
※3 所得率 = 農業所得 ÷ 農業粗収益

※4 計算不能

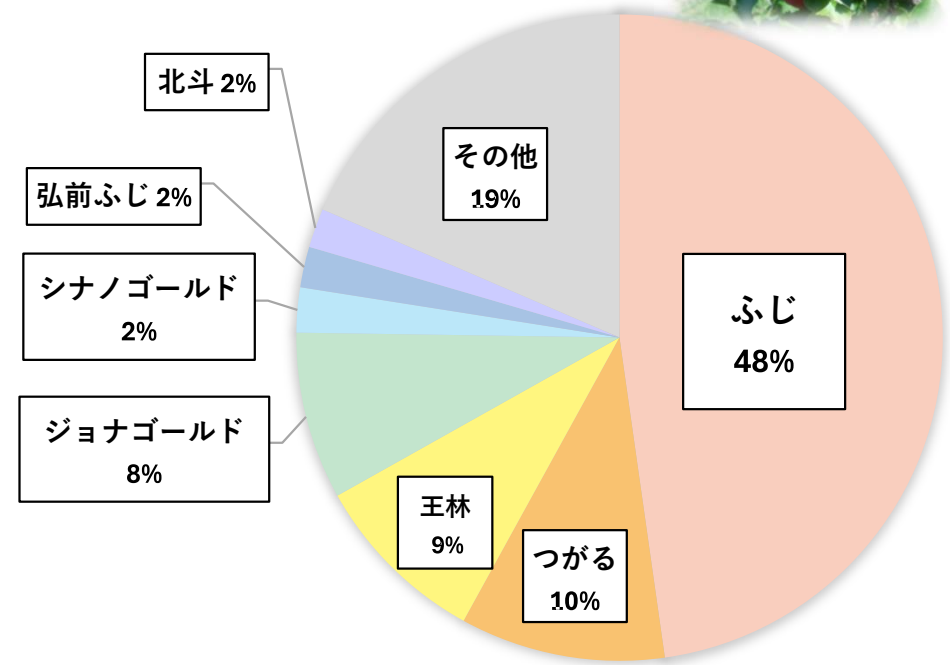
【トピック】りんごの生産状況

- 青森県のおりんごの出荷量は全国の6割、東北の出荷量は全国の8割近くを占めている。
- 一方、青森では、担い手の減少とともに、近年の気候変動による夏季の高温や冬季の大雪による被害が発生し、出荷量は減少傾向にある。また、隔年結果のため年によるばらつきがある。
- もっともポピュラーな品種である「ふじ」は、日本のりんごの約5割を占めるほか、海外でも生産量が多く、世界のりんごの20%を占めている。

○りんごの出荷量の推移



○りんごの品種構成



資料: 農林水産省「果樹生産出荷統計」

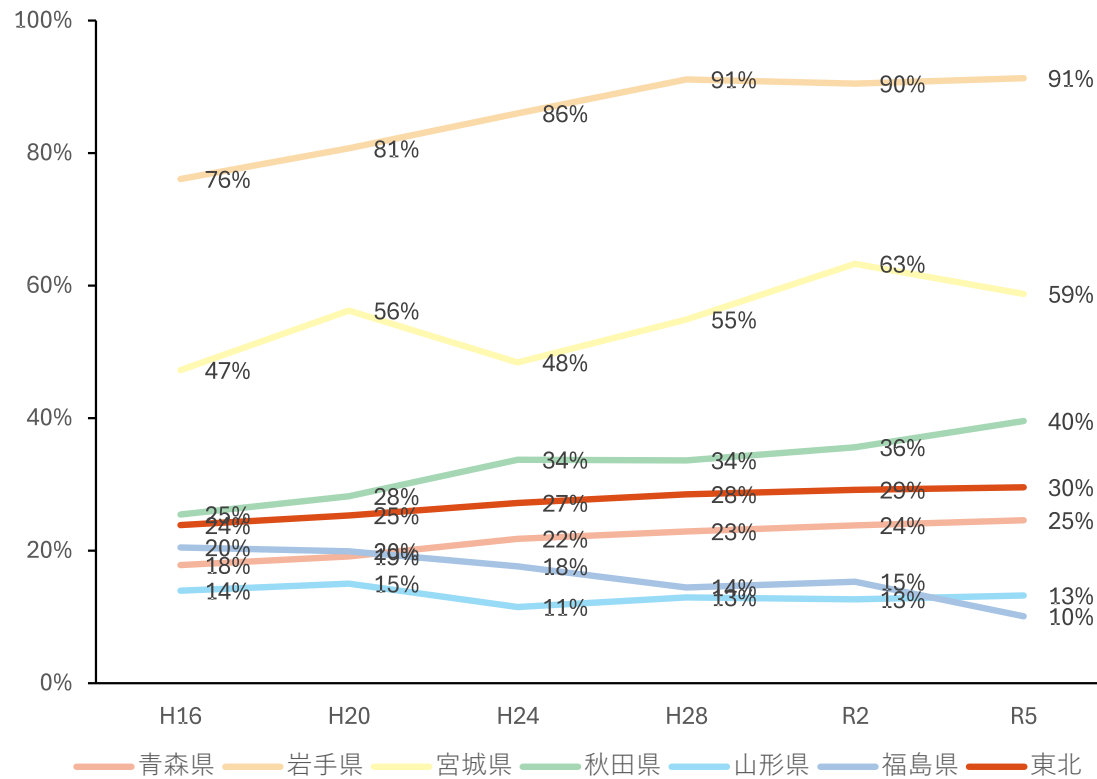
資料: 農林水産省「特産果樹生産動態等調査(令和5年産)」

【トピック】りんごのわい化栽培

- コンパクトな樹形で省力化が図れ、成園までの期間も短くなるわい化栽培は、東北全体で普及率は緩やかに上昇している。
- 中でも岩手県のみわい化栽培面積は、9割を超えている。



○りんごの栽培面積に占めるわい化栽培の普及率



○わい化栽培とは

わい性台木を使用したコンパクトな樹形で多くの本数を植える栽培様式。

✓ メリット

収穫始めが早く、成園化し収量が安定するまでの時間が通常より短縮。作業効率が向上し面積当たりの収穫量が多い。

✓ デメリット

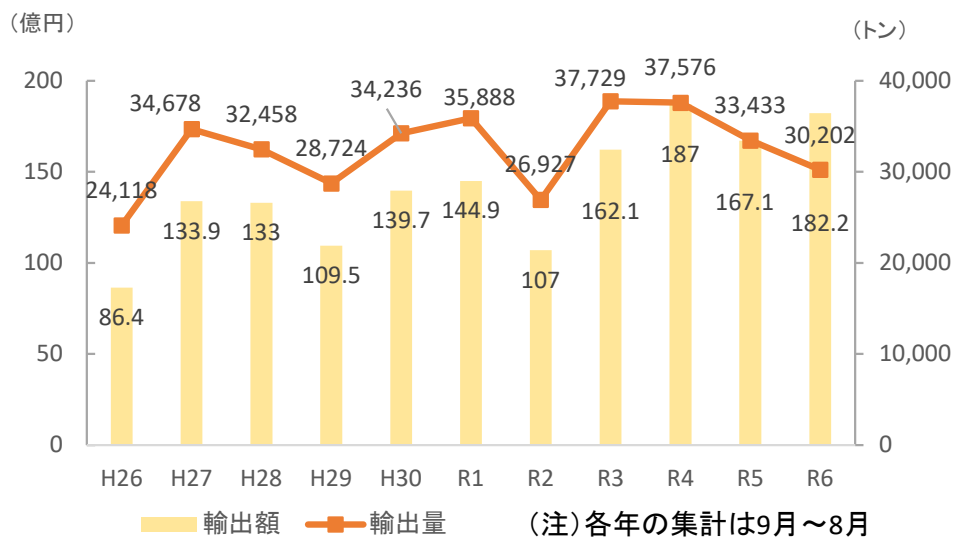
自然災害による被害やネズミによる食害。
定植20年以降の管理が難しく、経済寿命が短い。

	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	東北
R5	25%	91%	59%	40%	13%	10%	30%
R2	24%	90%	63%	36%	13%	15%	29%
H28	23%	91%	55%	34%	13%	14%	28%
H24	22%	86%	48%	34%	11%	18%	27%
H20	19%	81%	56%	28%	15%	20%	25%
H16	18%	76%	47%	25%	14%	20%	24%

【トピック】りんごの輸出の取組

○令和6年のりんごの年間輸出量は3万トンで、輸出額は182億円と果樹の中でも1位を占める。
○りんごは国内での消費が多く、出荷量に占める輸出量は5%程度である。

○りんごの輸出実績(全国)



○出荷量に占める輸出量の割合

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
割合	3%	5%	5%	4%	5%	6%	4%	6%	6%	6%	5%

資料:財務省貿易統計

○輸出の事例:津軽みらい農業協同組合(青森県)

<背景>

- ・輸出に取り組んだのは国内市場の価格が低迷していた平成14年頃で、台湾がWTOへの加盟したことを契機に始まった。
- ・近年は円安の影響で国内市場より販売価格が安定しているためりんご輸出額が増加している。

<取組>

- ・担い手、労働力不足対策として、慣行栽培から高密植栽培等の省力栽培を導入、薬剤散布、収穫等の一連の作業を機械化することで輸出先国のニーズに合った生産量を確保。
- ・温暖化等に対応するため、国内品種、海外品種の販売先国での評価と生産性の調査を行い、対応できる品種の導入を検討。

輸出品目	現状 令和4年度	現状 令和5年度	目標 令和8年度
りんご			
輸出量 (t)	5,644.6	4,517.7	4,889
輸出額 (億)	26	32	34
輸出先国	台湾、香港、シンガポール、タイ、ベトナム、マレーシア、インド		台湾、香港、シンガポール、タイ、ベトナム、マレーシア、インド、インドネシア

資料:輸出事業計画







【トピック】果樹を対象としたフラッグシップ輸出産地の取組

- 海外の規制やニーズに対応して継続的に輸出に取り組み、輸出取組の手本となる産地。
- 東北では、りんごで4産地が認定されている。

フラッグシップ輸出産地の主な要件

- ・輸出先国・地域の規制やニーズに対応した輸出を行っている。
- ・直近1年間で3,000万円以上の輸出実績がある。
- ・2年以上継続的に輸出に取り組み、いずれかの年に2ヶ国（地域）以上に輸出を行っている。



りんご 	株式会社日本農業①	青森県
	全国農業協同組合連合会山形県本部②	山形県
	つがる弘前農業協同組合③	青森県
	津軽みらい農業協同組合③	青森県
ぶどう 	アグベル株式会社①	山梨県、茨城県
	全国農業協同組合連合会山梨県本部 (JAフルーツ山梨・JAふえふき・JA山梨みらい・JA南アル ブス市・JA梨北)①	山梨県
	笛吹農業協同組合一宮ブロック果実販売対策協議会①	山梨県
	株式会社新亜商事②	山梨県
	全国農業協同組合連合会岡山県本部 (JA岡山、JA晴れの国岡山)②	岡山県
	全国農業協同組合連合会長野県本部② ジャパンフルーツ株式会社③	長野県 栃木県、長野県
もも 	全国農業協同組合連合会山梨県本部 (JAフルーツ山梨・JAふえふき・JA山梨みらい・JA南アル ブス市・JA梨北)①	山梨県
	笛吹農業協同組合一宮ブロック果実販売対策協議会①	山梨県
	全国農業協同組合連合会岡山県本部 (JA岡山、JA晴れの国岡山)②	岡山県
	和歌山県農業協同組合(JAわかやま)③	和歌山県
かんきつ 	えひめ愛フード推進機構①	愛媛県
	株式会社ローソンファーム熊本①	熊本県
柿 	みかん輸出コンソーシアム①	宮崎県、和歌山県、 福岡県、佐賀県、長 崎県、熊本県
	Jewelry Farm Group 株式会社③	福岡県
かき加工 (干し柿) 	和歌山県農業協同組合(JAわかやま)③	和歌山県
	みなみ信州農業協同組合①	長野県
	農事組合法人富山干柿出荷組合連合会② 志賀農業協同組合③	富山県 石川県

【トピック】東北の果樹産地での歴史的取組

やまがたフルーツ150周年

- 令和7年は、山形県にさくらんぼや西洋なしなどの苗木が植えられてから150年目の記念すべき節目の年です。
- 山形県では、これを記念し「やまがたフルーツ150周年」として様々なイベントなどが行われました。
- 8月9・10日開催の「やまがたフルーツEXPO」では、フルーツの魅力を様々な切り口で体験することを目的に、シンポジウムやスマート農機等の展示・実演、フルーツを使ったサイエンスショーや料理体験等が行われ、東北農政局からも菅家局長が祝辞を述べたほか、山形県拠点では、フルーツの消費促進及びみどりの食料システム戦略の普及・啓発を目的に、パネル展示、クイズ等を行いました。



青森りんご植栽150周年

- 令和7年は、青森県を代表する果樹となったりんごの苗木3本が植えられてから150年の記念すべき節目の年となります。
- 青森県では、これまでの青森りんごの歴史に感謝し、200年先の未来に向けた更なる進化と発展を目指して「青森りんご植栽150周年記念式典・イベント」が9月13・14日に開催されました。
- 式典には、農林水産省から庄司農林水産大臣政務官が出席され祝辞を述べました。
- また、宮下青森県知事から、2040年を見据え、青森りんご産業の中長期のグランドデザインとなる行動指針を示した「青森りんご総合戦略」が発表されました。



4 KGI達成のための行動指針

☑ 減少傾向にある生産量を取り戻すことのハードルは高く、生産現場の取組だけでは、KGIの達成は困難
 ☑ 高度に細分化・分業化されてきたサプライチェーンを構成する生産・流通・加工が連携し、更には広く関係者を巻き込んだ取組の展開が必要ことから、めざす姿の実現に向けて3つの行動指針を設定

KGI 重要目標達成指標	KGI達成に向けた3つの行動指針	行動指針における取組の方向性
生産量 40万 以上	生産の高度化 世界トップの生産技術をアップデートし、限られた労力で「質」と「量」を両立する	人材 経営会議や企業参入等、多様な人材の確保・育成 農地 関係農家の継承と後継者の育成 流通 高品質安定生産の基盤となる栽培技術の継承・継承
販売額 1,800億円 以上	販売力の強化 築き上げたブランド価値を更に高め、青森りんごを認めていただけるお客様を増やす	流通 消費者の求める価値を生み出す産物の創出 農産 国内外から関係者に届けるブランド価値の維持 加工 加工事業者の生産者や生産者への連携強化
を確保する	経済波及の拡大 観光や関連産業との連携を深め、収益源の拡大と地域エンゲージメントの向上を図る	文化観光 関係者や関係者を生かした産物紹介の拡大 関係者 関係者が見込まれる産物分野への取組の拡大 情報発信 国内外への積極的な発信と関係者の向上

【トピック】果樹における環境負荷低減の取組の「見える化」の取組例

- 農林水産省は、緑の食料システム戦略に基づき、生産者の環境負荷低減の取組を評価し、星の数で分かりやすく伝える「見える化」を推進している。
- 「見える化」では、温室効果ガス削減への貢献や生物多様性の保全の取組に分かりやすく等級ラベル(愛称:みえるらべる)で表示することで、生産者の環境負荷低減の努力が消費者に伝わり、農産物を選択できる環境づくりを進めている。



見える化の対象品目:計24品目

米、トマト(露地・施設)、キュウリ(露地・施設)、なす(露地・施設)、ほうれん草、白ネギ、玉ねぎ、白菜、キャベツ、レタス、大根、にんじん、アスパラガス、ミニトマト(施設)、いちご(施設)、ピーマン(露地・施設)、**リンゴ、温州みかん(露地・施設)、ぶどう(露地・施設)、日本なし、もも、ばれいしょ、かんしょ、茶**


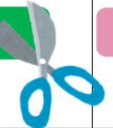


※括弧書きがないものはすべて露地のみ

○見える化の事例(福島県)

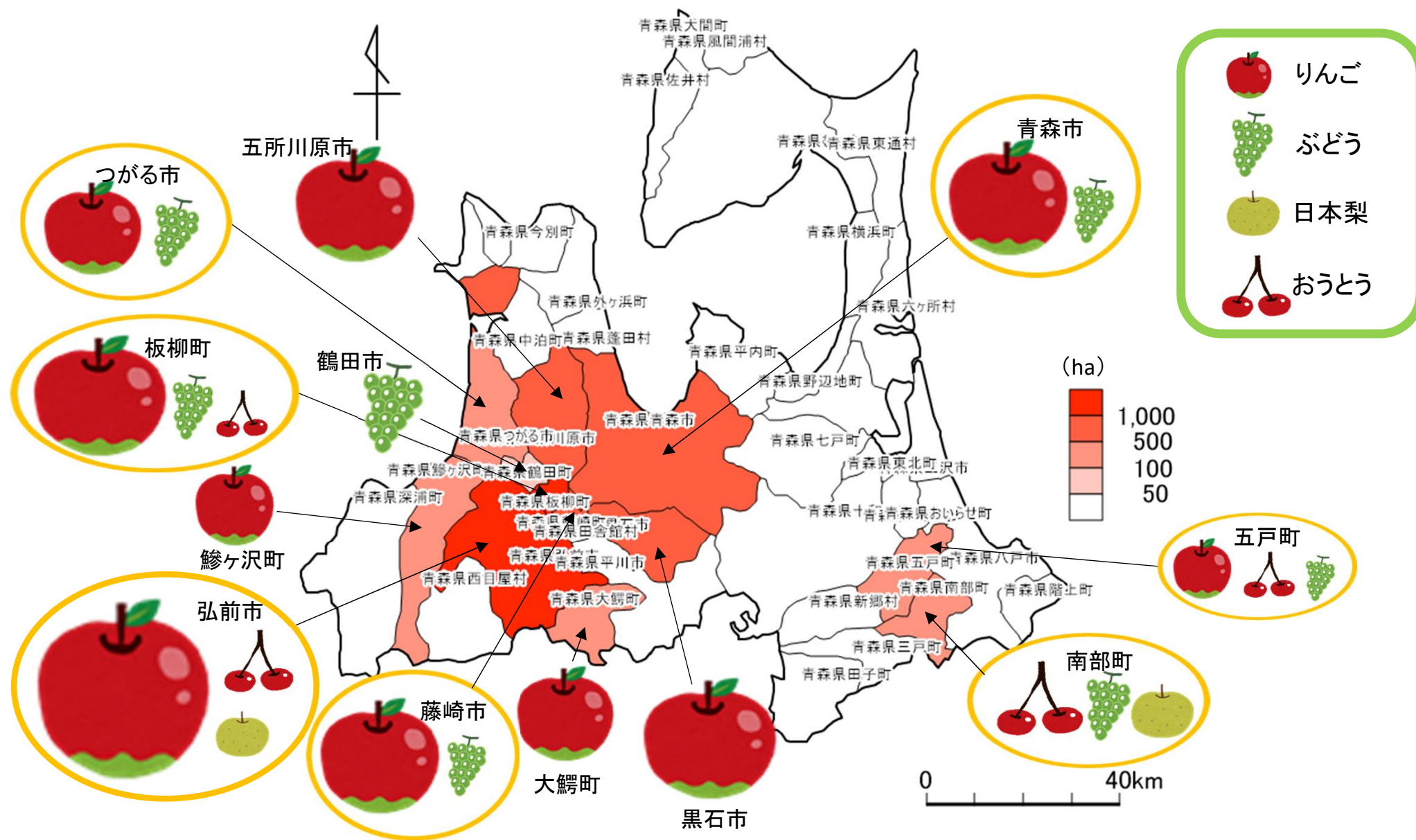
有限会社まるせい果樹園は、化学肥料や農薬等の使用を抑えることで環境負荷低減の「見える化」に力を入れており、もも、ぶどう(露地)、日本なし、りんごが「みえるらべる」に登録されている。



(参考) 東北の果樹栽培暦

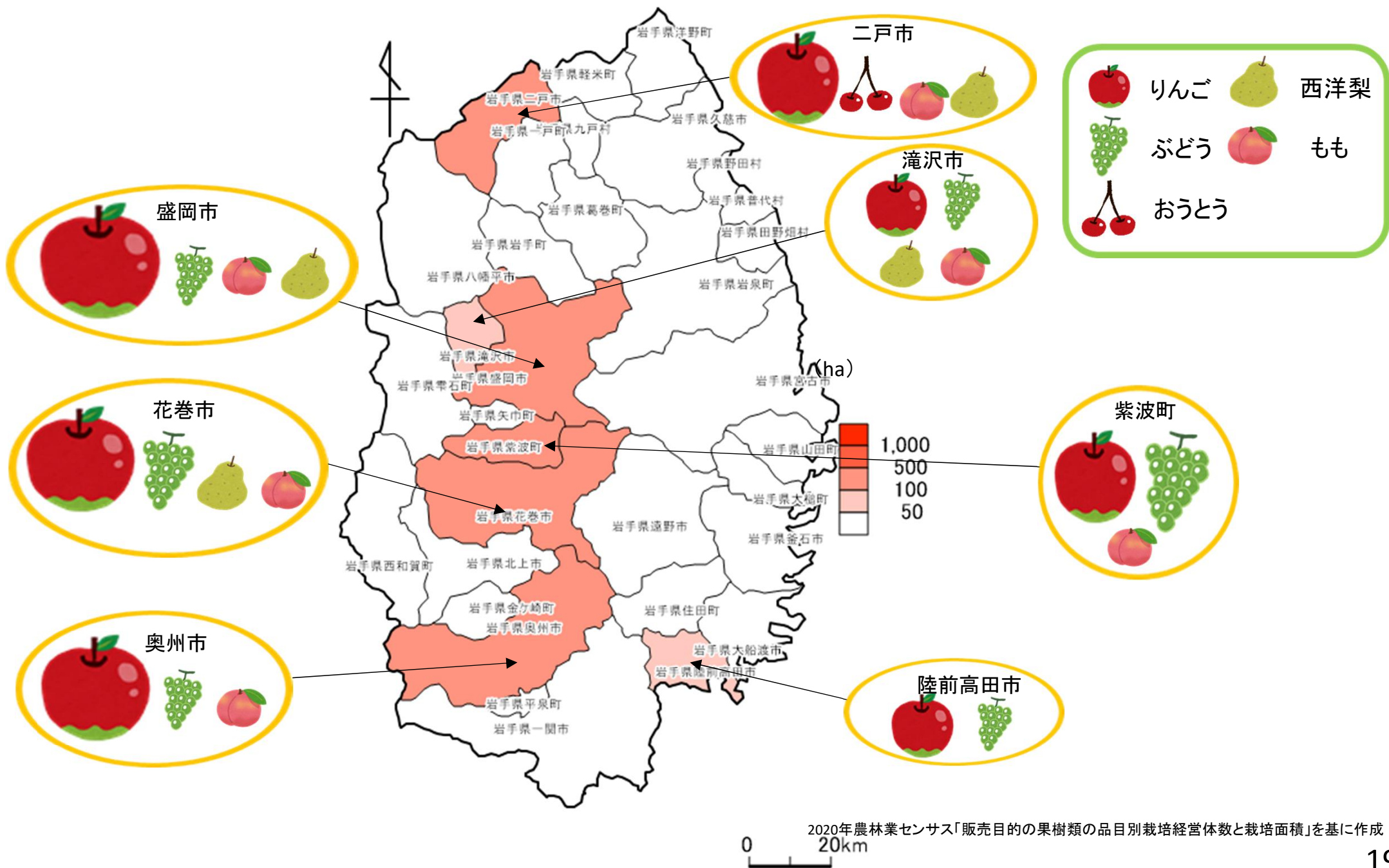
品目\月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
りんごの生育	休眠期			発芽展葉期	開花結実	花芽分化						休眠期
りんご	剪定		肥料	肥料散布	受粉	果実肥大・成熟			着色手入	収穫 		
おうとうの生育			発芽期	展葉期	満開期							
おうとう	整枝剪定			受粉	収穫・選果	夏季剪定					整枝剪定	
ぶどうの生育			発芽期	展葉期	満開期	開花期	落花期					
ぶどう		雨よけハウスの被覆			収穫・出荷					整枝剪定		
ももの生育	休眠期			展葉期	満開期						休眠期	
もも			発芽期	開花期	落花期	摘果	着色管理・反射シート設置	収穫				
西洋なしの生育			発芽期	展葉期	満開期							
西洋なし	整枝剪定 			摘芽・摘花・摘果			徒長枝管理			収穫	予冷・追熟・出荷	
日本なしの生育			発芽期	展葉期	満開期							
日本なし	剪定・誘引 			花芽の整理	一次摘果	新梢管理・摘芯		剪定・誘引・修正摘果	収穫・出荷 			

(参考) 青森県の果物マップ

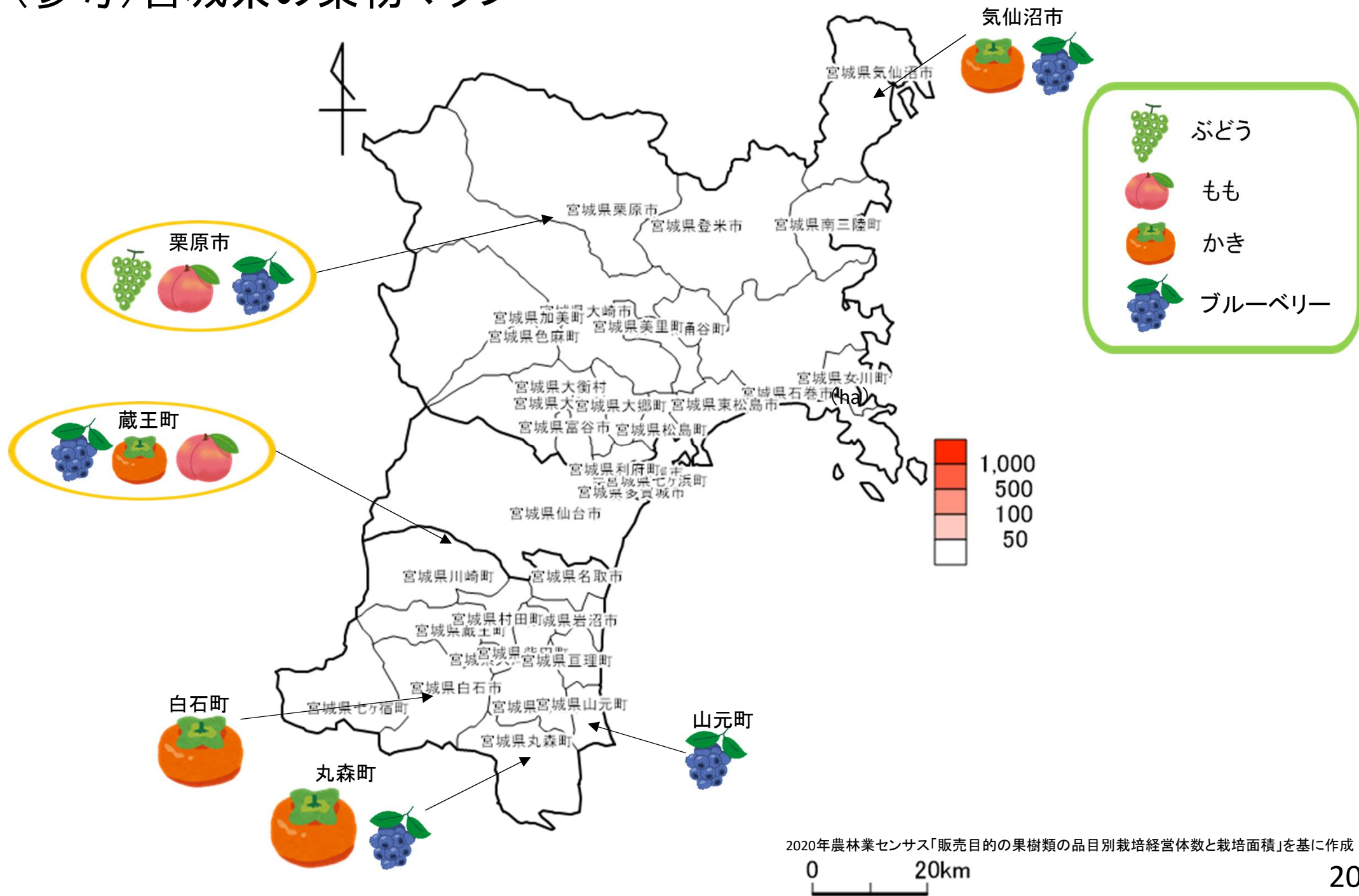


2020年農林業センサス「販売目的の果樹類の品目別栽培経営体数と栽培面積」を基に作成

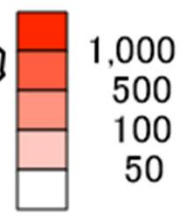
(参考) 岩手県の果物マップ



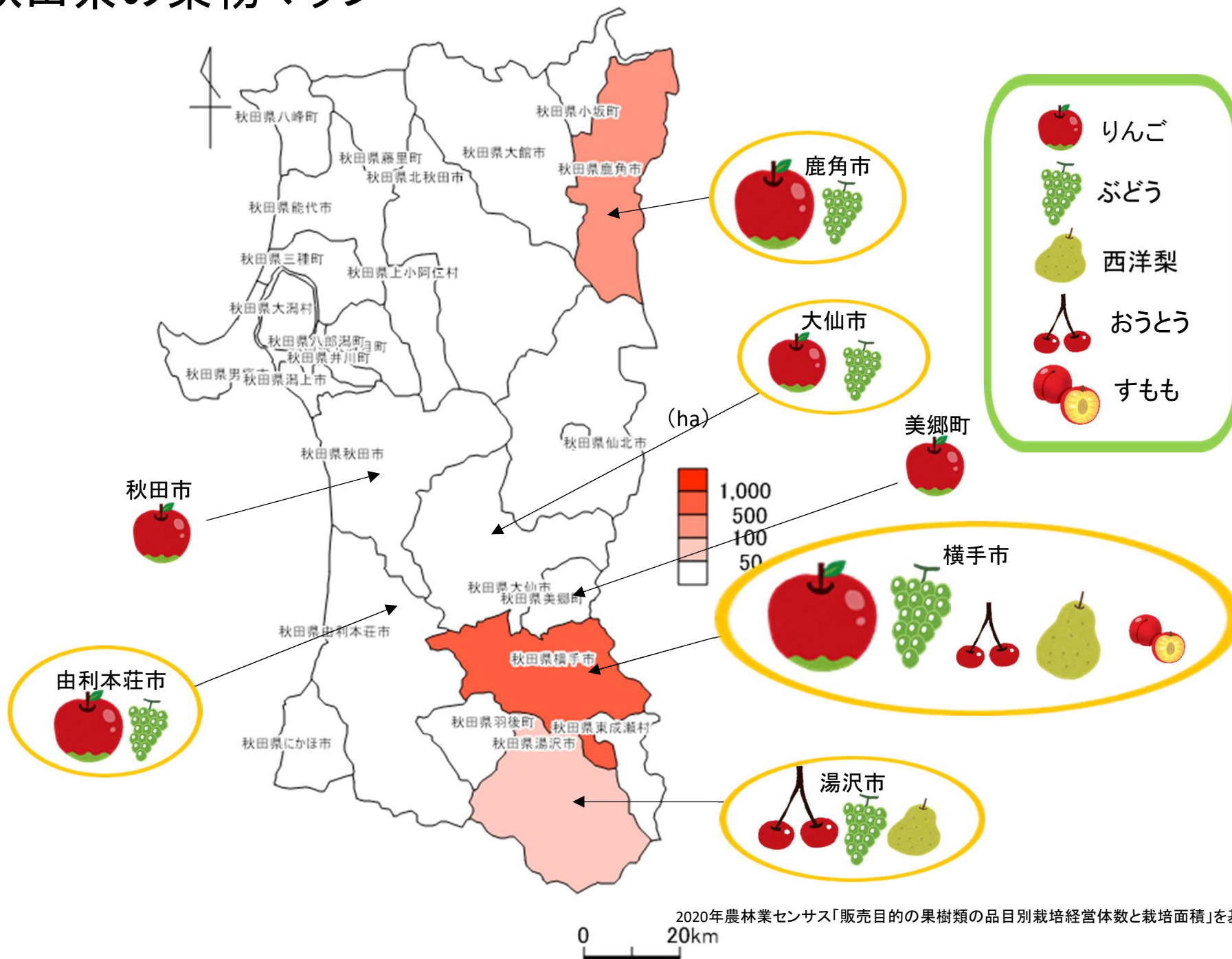
(参考) 宮城県の果物マップ



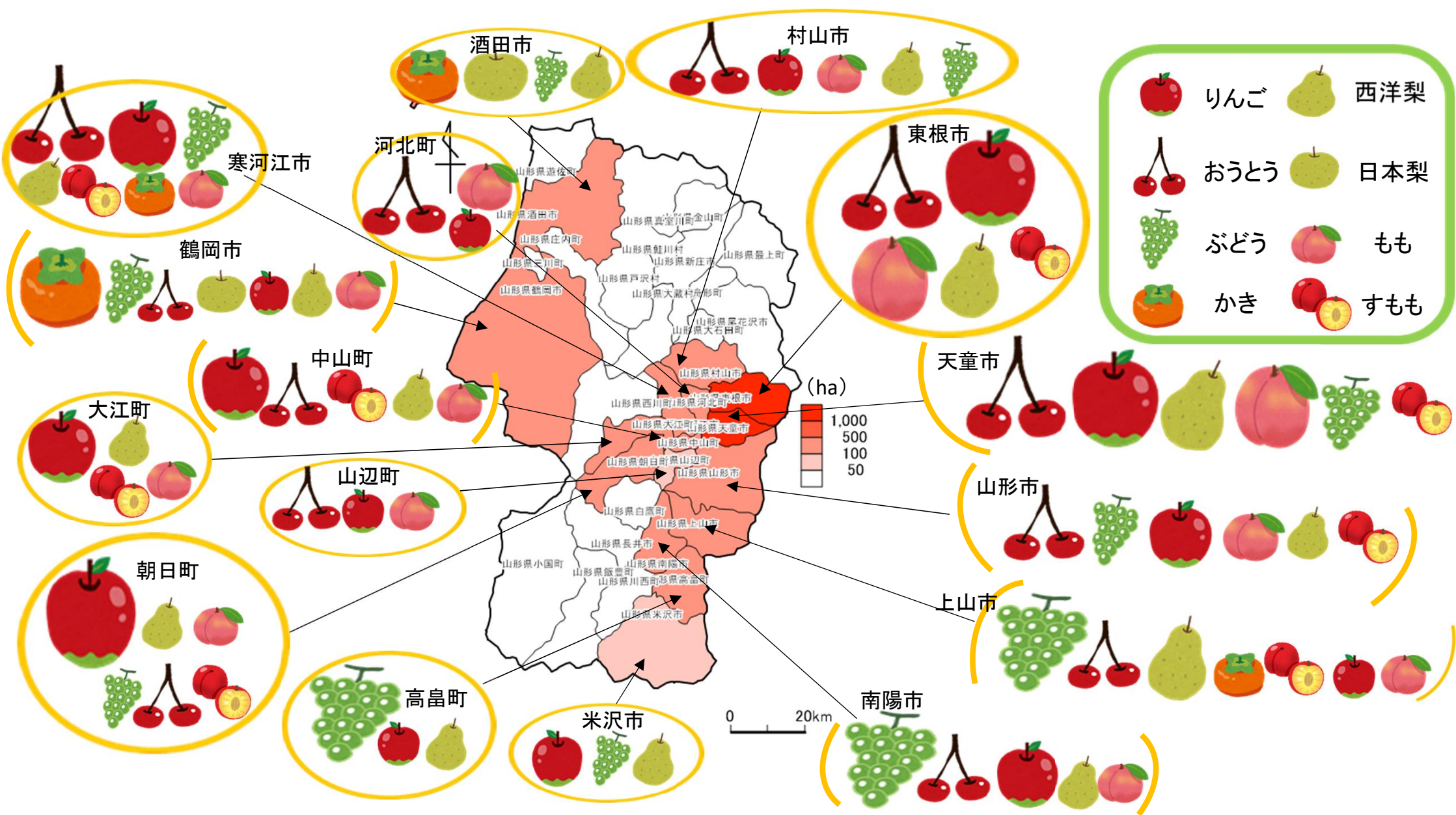
	ぶどう
	もも
	かき
	ブルーベリー



(参考)秋田県の果物マップ

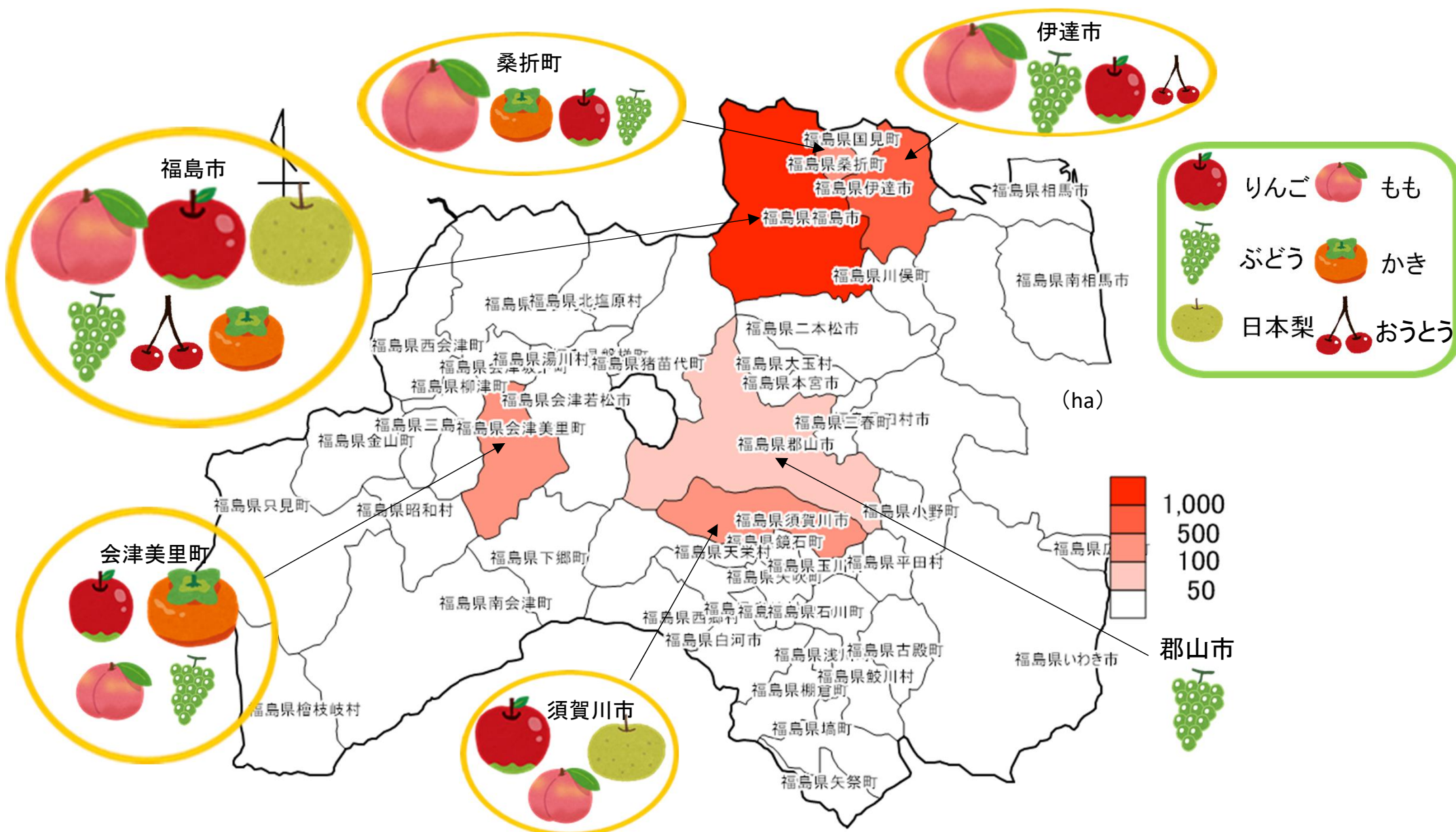


(参考)山形県の果物マップ



2020年農林業センサス「販売目的の果樹類の品目別栽培経営体数と栽培面積」を基に作成

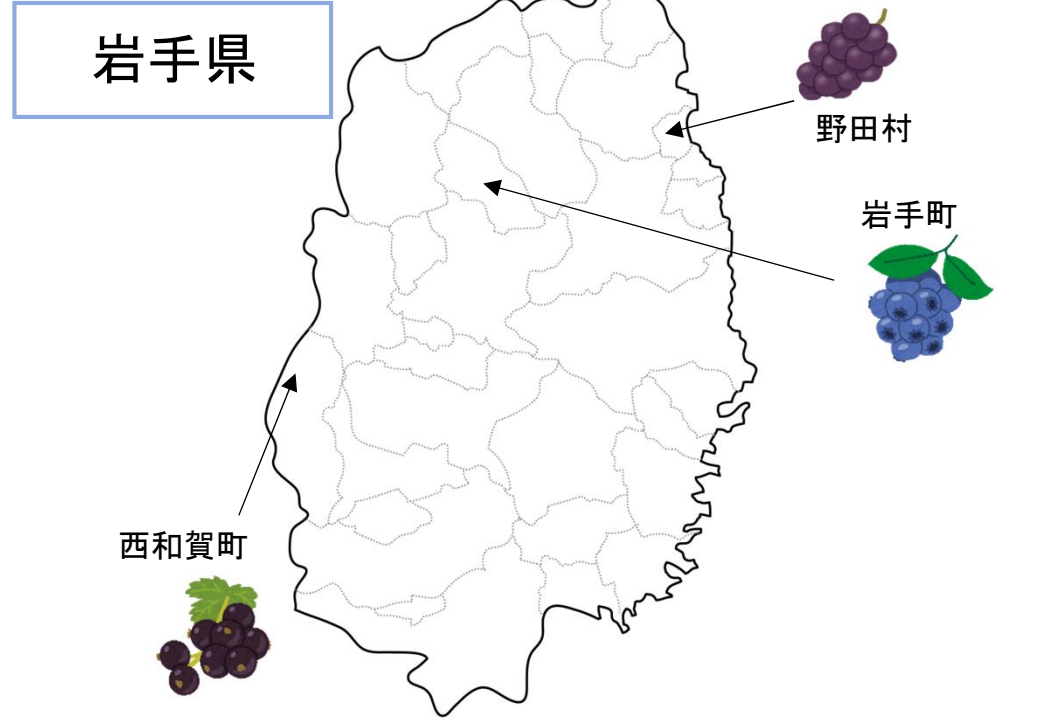
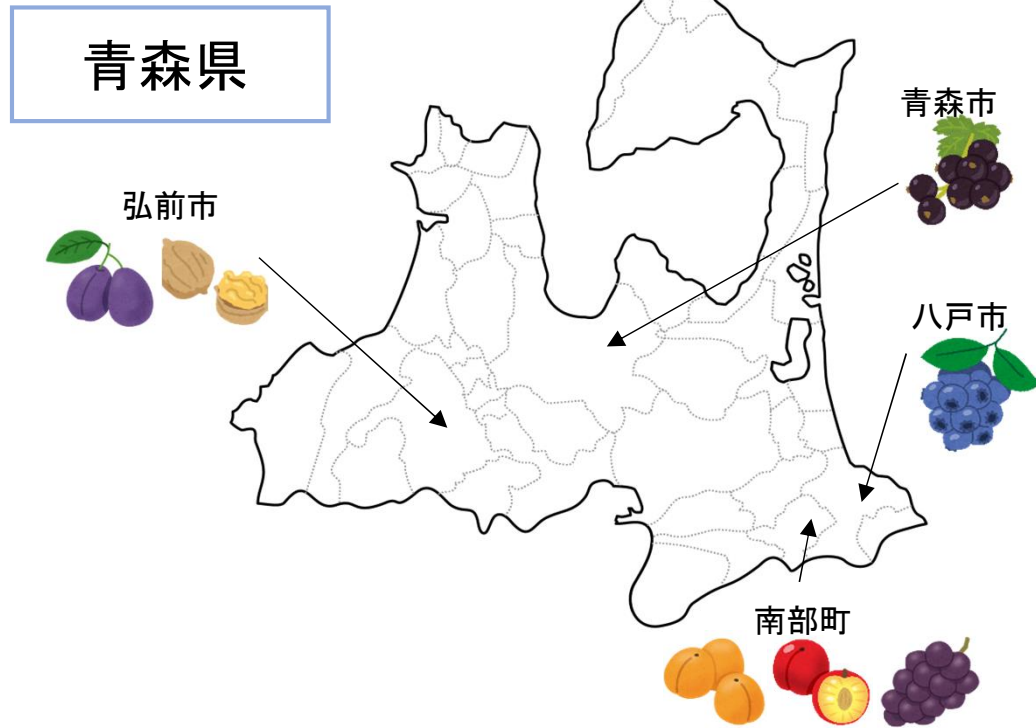
(参考) 福島県の果物マップ



2020年農林業センサス「販売目的の果樹類の品目別栽培経営体数と栽培面積」を基に作成

(参考) 青森県・岩手県の特産果樹

- 青森県は、あんず、カシスの生産量全国1位。主に青森市で栽培されているカシスは、「あおもりカシス」として地理的表示(GI)に平成27年12月に登録。あおもりカシスは、品種改良されていないため、原種ならではの風味、酸味、栄養がある。
- 岩手県は、ヤマブドウの生産量全国1位。ヤマブドウは、実が小さく種があるため主な用途は加工用。通常のカシスの8倍のポリフェノール、3倍の鉄分、4倍のビタミンCを含んでいる。



※作物統計調査で調査している品目を除く果樹で、各都道府県内50アール以上栽培され、かつ出荷実績がある品目
各市町村の栽培面積の合計が5ha以上の品目を対象

地理的表示(GI)・・・その地域ならではの自然的、人文的、社会的な要因の中で育まれてきた品質、社会的評価等の特性を有する産品の名称。地域の知的財産として保護されている。

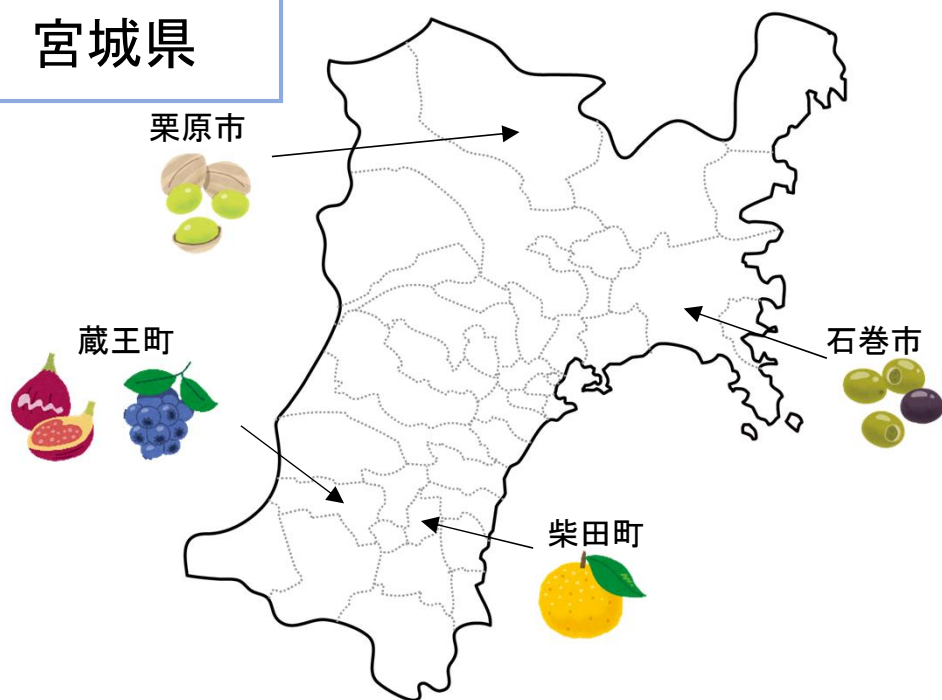
(参考)宮城県・秋田県の特産果樹

○宮城県石巻市は、オリーブの北限。

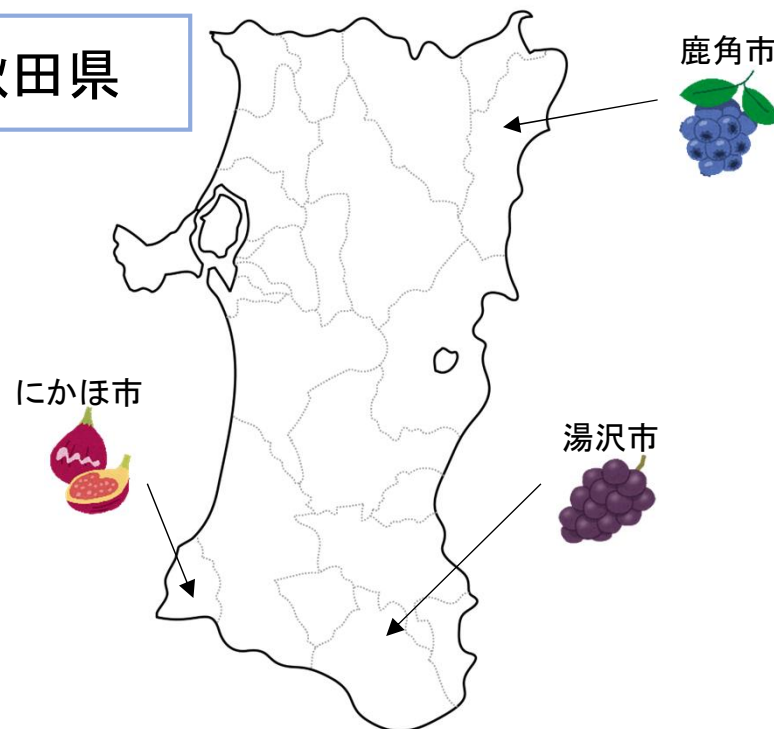
平成26年に栽培、令和3年にはオリーブオイルの製品化を開始する等、石巻市の復興の象徴。

○秋田県にかほ市で栽培されているイチジクは「大竹いちじく」として地理的表示(GI)に令和2年3月に登録。熟しても果皮が黄緑色、小粒、甘さが控えめな特徴があり、果皮を付けたまま食べることが可能だが、主な用途は甘露煮等の加工用。

宮城県



秋田県



※作物統計調査で調査している品目を除く果樹で、各都道府県内50アール以上栽培され、かつ出荷実績がある品目
各市町村の栽培面積の合計が5ha以上の品目を対象

(参考)山形県・福島県の特産果樹

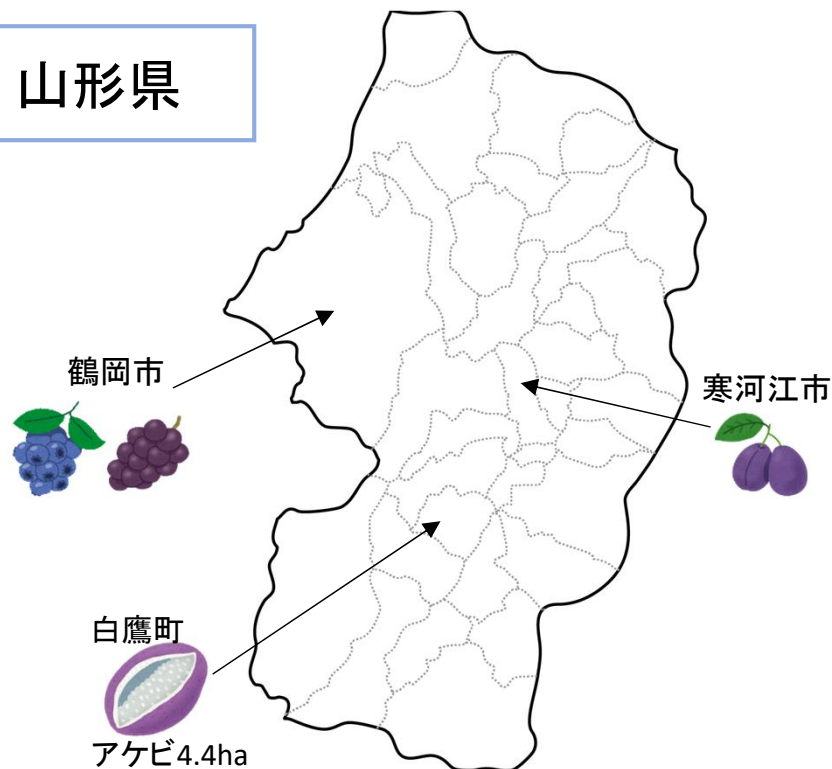
○山形県は、ヤマブドウの生産量が全国2位。福島県は、ネクタリンの生産量が全国3位。

○山形県のアケビは、栽培面積は4.4haで小さいが全国の約9割を占める。

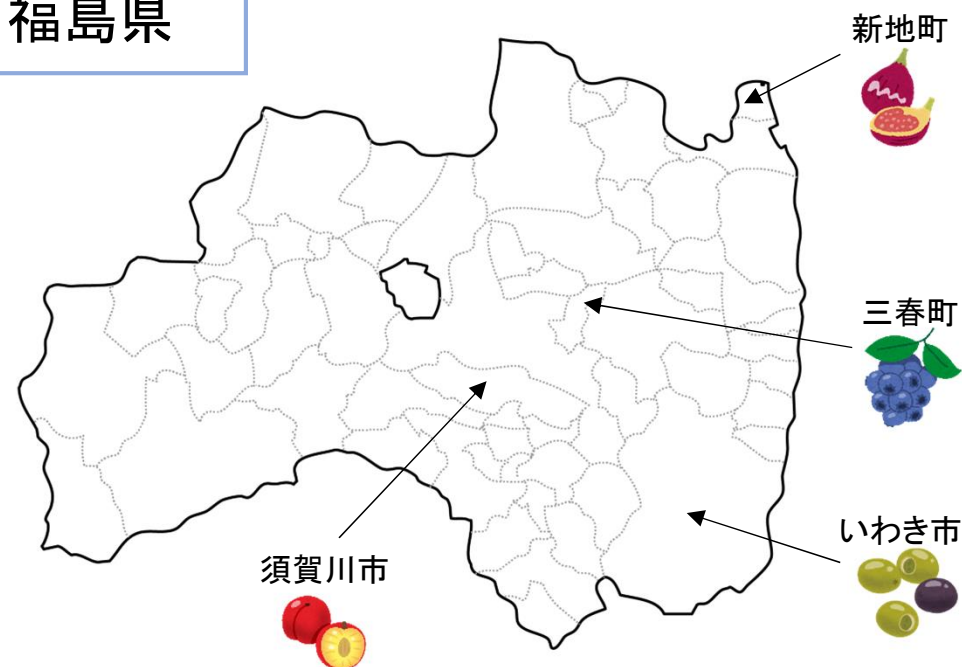
アケビは、ゼリー状の乳白色の果肉ですっきりとした甘さと素朴な味わいが特徴。その皮は天ぷら、味噌炒めなどの食材となっている。

○福島県いわき市は、日照時間が長く雪がほぼ降らないためオリーブの栽培に適している。

山形県



福島県

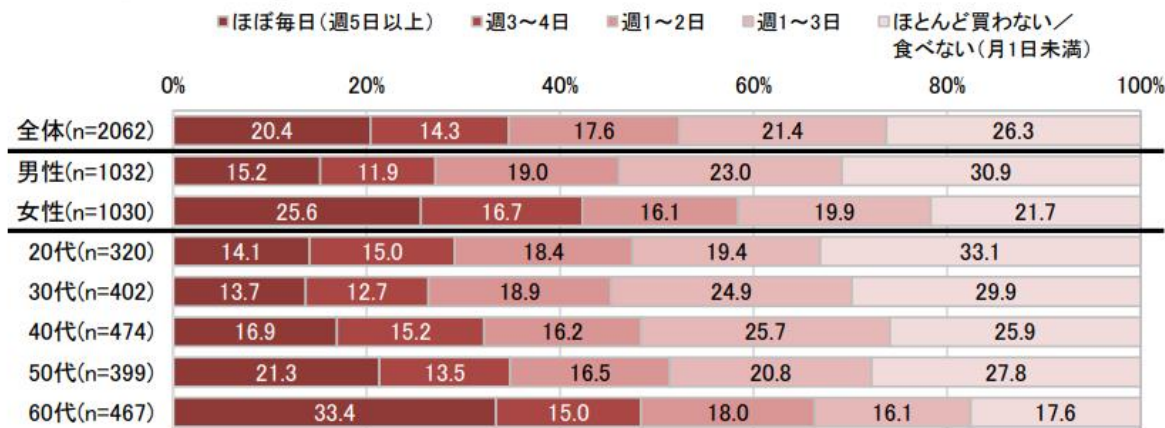


※作物統計調査で調査している品目を除く果樹で、各都道府県内50アール以上栽培され、かつ出荷実績がある品目
各市町村の栽培面積の合計が5ha以上の品目を対象

【トピック】果実の消費

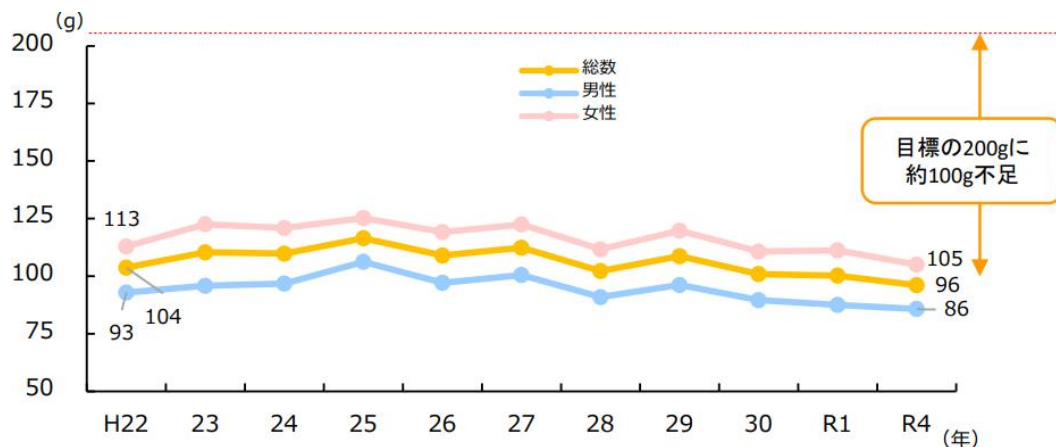
- 果物の摂取頻度は、男性では「ほとんど食べない」、女性では「ほぼ毎日」という回答が最多。
- 1人1日当たりの果実摂取量は、目標の200gに100g不足。
- 果実の消費拡大に向けて、「毎日くだもの200グラム運動」等により普及啓発活動を実施。

○果実の摂取頻度



資料：(公財)中央果実協会「果物の消費に関するアンケート調査」(令和5年度)

○1人1日当たりの果実の摂取量の推移



資料：厚生労働省「国民健康・栄養調査」(令和2年及び3年は調査中止)
注：データは20歳以上の者。「果実摂取量」とは、生果、果汁・果汁飲料の合計。



国産果物の消費拡大に関するポスター



「毎日くだもの200グラム運動」
ロゴマーク



毎日くだものを200グラム食べましょう！

～毎日くだもの200グラム運動～

みずみずしいくだものは、野菜と同じくバランスのよい食生活に欠かせません。
気候に恵まれた東北では、くだもの種類も実に豊富です。
旬のくだものや、好きなくだものを毎日食べて、バランスのよい食生活を目指しましょう。

